

コースはすべてタイムコントロールで構成されているTempO。この種目の世界選手権の試行大会が開かれた。

TempO 競技の詳細解説については、本誌 2008 年 2 月号および 6 月号に掲載

正式種目へのステップ

昨年行われたハンガリーでのデモンストレーションに続き、今年も TempO 世界選手権の試行大会として WTOC Day2 の翌日に開かれた。

IOF 総会の議決を経て、2013 年にも正式種目となる見通し。

本大会のルール

今回は TempO では一般的に設定が認められている Z (正解なし) の課題が出されなかった。このため、競技者はよりスピーディーな判断を要求されることとなった。

1つの DP につき 3~4つの課題が出され、(この DP とそこで出される課題のフラッグ群のことをまとめて「ステーション(Station)」と呼んでいるようだ。)コース全体で 6ステーション合計 20 課題が設定された。

制限時間は 1ステーションごとに設定され、1課題あたり 45秒×課題数とされた。(つまり 3課題あるステーションでは 2分 15秒、4課題あるステーションでは 3分。)なお、制限時間の 20秒前にはその旨警告が出される。

そのほか、不正解のペナルティは 1課題につき 45秒、正解数は競わず、所要時間の累計とペナルティの合計が少ない選手が上位になる。

結果

日本選手の成績(左端は順位)

(Open クラス : 全 50 名)

15 木村 治雄 249 秒

43 鈴木 規弘 439.5 秒

(Paralympic クラス : 全 39 名)

32 森 長三 515.5 秒

(Guest : 全 21 名)

2 山口 拓也 200 秒

5 伴 毅 251 秒

9 藤生 考志 305.5 秒

11 田代 雅之 319 秒

18 小山 太朗 478.5 秒

※参考 上位 3 人の紹介

(Open クラス)

1 Lauri Kontkanen (FIN) 95 秒

2 Lars Jakob Waaler (NOR) 103 秒

3 Martin Fredholm (SWE) 150.5 秒

(Paralympic クラス)

1 Ola Jansson (SWE) 146.5 秒

2 Lennart Wahlgren (SWE) 173 秒

3 Bohuslav Hulka (CZE) 206.5 秒

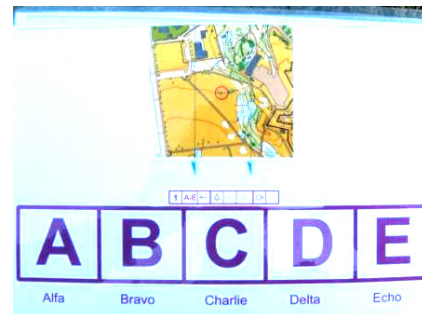
筆者も Guest で参加し、全問正解したものの、1問ミスの選手にペナルティを加味してもなお及ばなかった。

また、20課題を合計 95秒で回答する選手もおり、正確に回答するだけではなかなか上位に行けないという状況であった。

この種目ではタイムコントロールを解く手続きの速さも求められるが、それは「慣れ」によるところも大きいと考えられる。

とある海外選手の話によると、強豪国では、実践的な練習が年間 50 回ほどあるそうで、単純に考えても日本の 8~10 倍である。このあたりの環境の整備も今後の課題であると感じた。

(山口拓也)



デモ用コントロールの風景。右上の写真のような地図をまとめて渡され、1から順に答える。